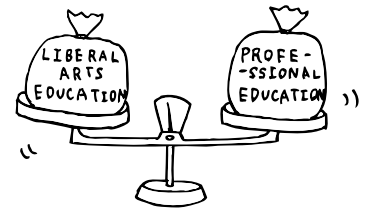


contents

[コラム]	[解説]	[解説]	[解説]	[特別コラム]
一般情報教育不要論？	JANOG27 Meeting 「高校の情報の授業を知っていますか？」	イノベーション経営 カレッジの取り組み	産学協働 ICT 人材育成 の取り組み	お大師様を訪ねて (3) 赤鬼ボブ・ホーナー
…河村一樹	…水越一郎・佐々木健	…佐藤 亘	…小林真也	…湖東俊彦

基 般 Column



一般情報教育不要論？

1991年に施行された大学設置基準の改正（大学の大纲化）により、一般教育と専門教育の区分や一般教育内の科目区分が廃止され、4年間の学部教育を自由に編成できるようになった。その結果、ほとんどの大学において一般教育課程や教養部が廃止され、教養教育よりも専門教育が重視されるようになった。このため、一般情報（処理）教育でもその余波を受け、徐々に衰退化が進んでいるように思えてならない。

一般情報（処理）教育委員会では、2001年度に全国規模の一般情報教育に関する調査を実施した。この結果、必修より選択がやや多い、操作演習を主とする科目名が多い、1科目2単位程度の開講といった実状が浮かび上がってきた。

その後、2003年度から高等学校で教科「情報」が新設されたことを受けて、2006年問題が浮上した。これは、高等学校で情報教育が始まったことから、大学での一般情報教育は重複するのではいけないのではないかという問題であった。しかし、実際には高等学校で未履修問題（「世界史」の次に「情報」の未履修の生徒が多かった）が発覚したこともあってそれほど問題視されなかったが、新入生のICTに関する知識・技能にはかなりの差が生じ多様化が進んだ。

そして現在、18歳人口の激減と大学進学率の増加により大学全入時代に突入している。一方、初等中等教育でのゆとり教育の結果、学力低下問題が生じている。これらより、多くの大学では学生の学力レベルの低下に直面しており、専門教育を重視したカリキュラムに対応できない学生が急増している状況にあるといえよう。

このような時代にこそ、リベラル・アーツとしての教養教育が必要とされるはずである。我々が所属している一般情報教育委員会では、リベラル・アーツを基盤とした一般情報教育を提唱し続けている。すでに、そのカリキュラムとシラバス、および、情報専門学科におけるカリキュラム標準 J07 での GEBOK (General Education Body of Knowledge) を策定するとともに、これらに準拠した教科書「情報とコンピュータ」「情報とネットワーク社会」(ITText 一般教育シリーズ) をオーム社から発刊した。これらが各大学における学部の共通教育の中に何らかの形で取り込まれることができれば幸いである。

河村一樹（東京国際大学）